

商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2014年2月調査結果 —



業況DIは、一服。駆け込み需要への期待も、反動減など先行き不安が広がる

<結果のポイント>

- ◇2月の全産業合計の業況DIは、▲7.7と、前月から▲4.6ポイントの悪化。個人消費では、消費税引き上げ前の駆け込み需要がみられるものの、東北・関東を中心とする記録的な大雪により、物流への支障や売上減少など、製造業・非製造業を問わず、影響は広範に及んだ。中小企業の景況感は、売上・受注の堅調な推移を背景に改善傾向が続いていたが、足元では、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増に加え、駆け込み需要の反動減への警戒感が伺える。
- ◇業種別では、建設業は、公共工事の入札不調に加え、一部で住宅着工が落ち着きつつあるためプラス幅が縮小。製造業は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、自動車関連のけん引が続き、実体はほぼ横ばい。卸売業は、衣料品や食料品関連で、仕入価格の上昇・高止まりが続き、収益改善が遅れていることから悪化。小売業は、駆け込み需要がみられるものの、大雪の影響により客足が遠のき、企業マインドが悪化したためマイナス幅が拡大。サービス業は、大雪に伴い、物流に支障が出た運送業のほか、客数減少やキャンセルが相次ぎ売上が伸び悩んだ飲食・宿泊業が押し下げ、悪化。
- ◇項目別では、売上DIは、消費者のマインド好転や消費税引き上げ前の駆け込み需要により、高価格帯商品の売れ行きが好調な小売業で、消費税が5%になる直前の97年3月(▲5.3)以来の水準となった。
- ◇先行きについては、先行き見通しDIが▲14.5(今月比▲6.8ポイント)と、大幅な悪化を見込む。消費税引き上げ前の駆け込み需要により、3月は衣料品や日用品など、小売業を中心に売上・受注の増加が見込まれるものの、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増が続く中、4月以降、反動減による受注の落ち込みや消費マインドの低下などが見込まれ、中小企業においては先行きに対する警戒感が強まっている。

----- 調査要領 -----

○調査期間 2014年2月14日～20日

○調査対象 全国の419商工会議所が3147企業にヒアリング

(内訳) 建設業：481 製造業：757 卸売業：344 小売業：753 サービス業：812

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および自社が直面する問題等

※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりやを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$
$$\text{業況・採算} : (\text{好転}) - (\text{悪化}) \quad \text{売上} : (\text{増加}) - (\text{減少})$$

＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、今月の業況D Iは前月に比べ、全業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値の傾向(最近6カ月の傾向) ↑ 改善傾向 ⇔ ほぼ横ばい ↓ 悪化傾向

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「公共工事の労務単価が引き上げられ、入札不調の解消に期待できる。ただ、資材価格の高止まりもあり、依然として利益率は低い」（一般工事業）
- ・「住宅などの着工が続くものの、徐々に落ち着き始めている。4月以降の反動減が心配」（一般工事業）
- ・「社員の高齢化が進んでいるため、若年者を採用したいが応募がない」（建築工事業）

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「消費税引き上げ前の駆け込み需要により、寝具やカーテン、じゅうたんなどの増産が続く」（寝具・室内装飾品製造業）
- ・「電機メーカーからの受注が増加し、人手不足の状況」（電気機械部品製造業）
- ・「電力料金などの負担増加分を価格転嫁したいが、取引先との交渉が難航。収益改善が進まない中、4月以降の受注の落ち込みが不安」（金属熱処理業）

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「新幹線の建設をはじめ、公共工事向けは堅調。他方で、人手不足に伴い、着工や工期の遅れもみられ、自社への影響を懸念している」（建築材料卸売業）
- ・「コンビニの出店攻勢や、大手スーパーの営業時間延長などにより、地元小売店の業況が悪化。自社の受注も減少している」（飲料・食料品卸売業）
- ・「寒い日が続いたため、春物衣料の受注が例年より遅れており、売上が伸び悩んだ」（衣料品卸売業）

【小売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	↑	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「腕時計などの高額品が堅調に推移したほか、バレンタイン商戦が活況で、高価格帯商品の動きが良かった」（百貨店）
- ・「2週連続で週末に大雪が降った影響により、来店客数が伸び悩み、売上が減少した」（服飾品販売店）
- ・「冷蔵庫・洗濯機などの白物家電やパソコンの売れ行きが好調なものの、4月以降は売上の低迷が見込まれる」（家電販売店）

【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「大雪の影響で、高速道路の通行止めやトラックの立ち往生などがあり、荷物を運べず、取引に支障が出た」（運送業）
- ・「暖房費の負担が重く、収益を圧迫しているものの、3月から卒業・入学シーズンに入るため、売上増が期待できる」（飲食店）
- ・「大雪に伴う鉄道やバスの運休等により宿泊キャンセルが相次ぎ、100万円以上の損失が出た」（旅館業）

【業況についての判断】

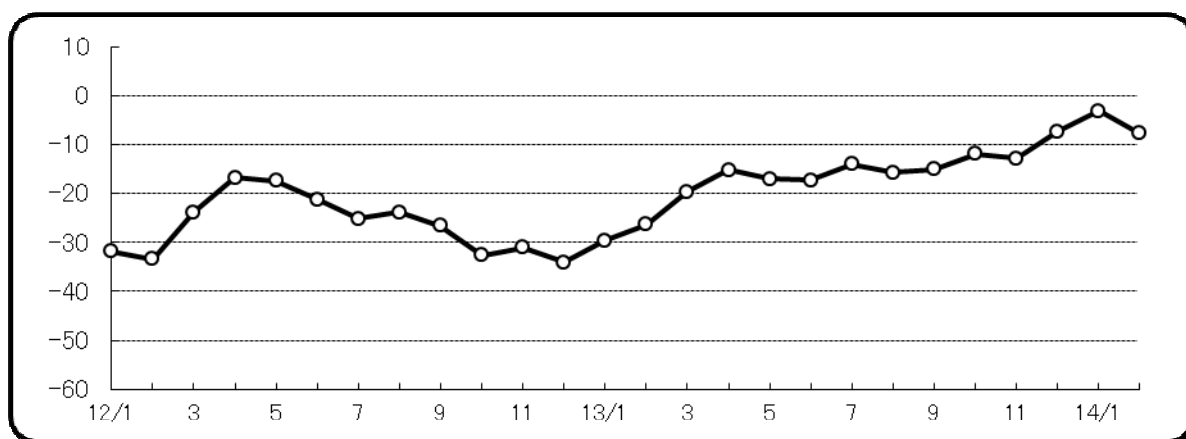
- 2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲7.7（前月比▲4.6ポイント）と、悪化。産業別にみると、建設業は、公共工事の入札不調に加え、一部で住宅着工が落ち着きつつあるためプラス幅が縮小。製造業は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、自動車関連のけん引が続き、実体はほぼ横ばい。卸売業は、衣料品や食料品関連で、仕入価格の上昇・高止まりが続き、収益改善が遅れていることから悪化。小売業は、駆け込み需要がみられるものの、大雪の影響により客足が遠のき、企業マインドが悪化したためマイナス幅が拡大。サービス業は、大雪に伴い、物流に支障が出た運送業のほか、客数減少やキャンセルが相次ぎ売上が伸び悩んだ飲食・宿泊業が押し下げ、悪化。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲14.5（今月比▲6.8ポイント）と、悪化する見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業は、人手や資材不足による公共工事の入札不調や、住宅関連の受注の落ち込みが見込まれるため、悪化。製造業は、取引先における反動減に備えた減産対応により、受注の低迷が予想されることなどから悪化。卸売業は、駆け込み需要の反動減により、好調だった建設業・製造業向けの受注が減速する見込みのため悪化。小売業は、3月は駆け込み需要が見込まれるものの、4月以降、売上の大幅な落ち込みが懸念されることから悪化。サービス業は、歓送迎会や春の行楽シーズンを控えており、消費税引き上げに伴う影響は小幅に止まることが見込まれるため改善。

業況DI(前年同月比)の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲15.1	▲11.9	▲12.8	▲7.4	▲3.1	▲7.7	▲14.5
建設	4.1	18.2	14.6	14.0	18.4	12.7	▲1.3
製造	▲16.2	▲13.7	▲11.1	▲2.4	1.9	0.3	▲8.7
卸売	▲20.7	▲17.5	▲16.2	▲10.6	▲9.1	▲15.3	▲17.8
小売	▲25.1	▲22.8	▲26.8	▲24.2	▲14.3	▲16.8	▲32.0
サービス	▲14.7	▲18.4	▲18.8	▲9.1	▲10.4	▲16.8	▲10.2

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

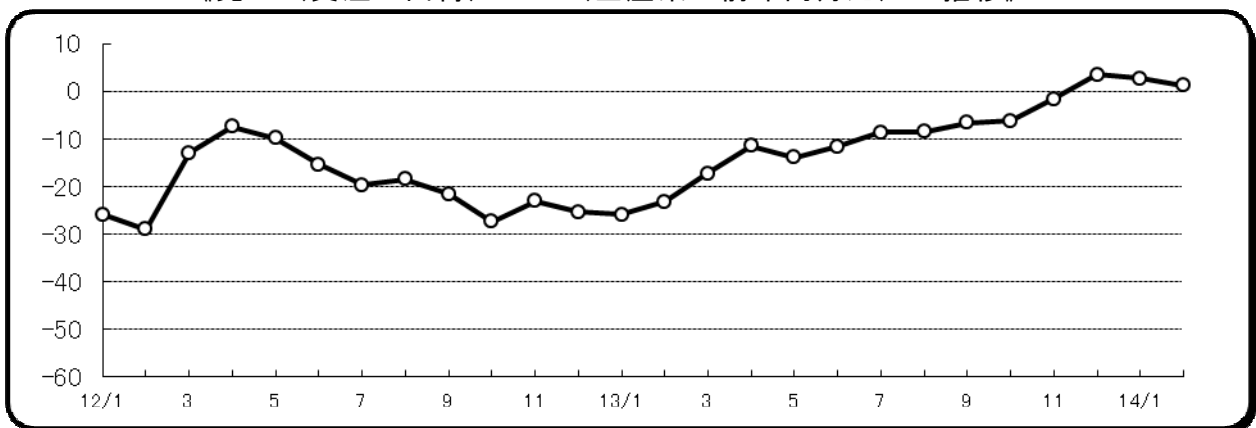
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは1.2（前月比▲1.5ポイント）と、前月から悪化。産業別にみると、建設業は、深刻な人手不足や資材価格の高止まりにより、公共工事で入札不調がみられたほか、住宅着工では増加傾向が落ち着きつつあることからプラス幅が縮小。製造業は、自動車関連にけん引され、高水準を維持しているものの、大雪の影響により、一部で操業に影響がみられたため悪化。卸売業は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。小売業は、白物家電や腕時計などの高額品を中心に、消費税引き上げ前の駆け込み需要が活発化していることなどから改善。サービス業は、大雪の影響により、運送業で、物流に支障が出たほか、飲食・宿泊業では、来店客数の減少や予約のキャンセルが相次いだことから、悪化。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲6.8（今月比▲8.0ポイント）と、悪化する見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、サービス業は改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。その他の4業種は悪化する見込み。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲6.7	▲6.3	▲1.7	3.4	2.7	1.2	▲6.8
建設	21.3	25.7	19.4	25.7	24.9	16.1	0.0
製造	▲11.1	▲6.7	2.8	5.6	10.7	9.3	0.8
卸売	▲9.8	▲4.7	0.0	8.1	▲4.8	0.6	▲6.7
小売	▲16.3	▲25.1	▲20.5	▲15.7	▲15.9	▲8.5	▲22.0
サービス	▲10.5	▲11.5	▲4.5	2.9	▲0.3	▲7.2	▲4.4

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

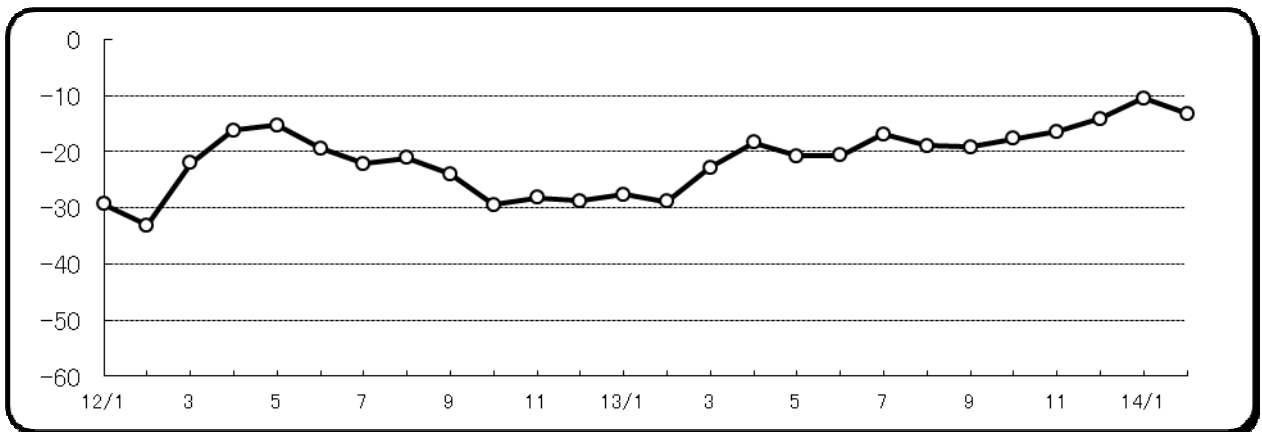
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲13.2（前月比▲2.7ポイント）と、悪化。産業別にみると、建設業は、技術職の person 費が増大する中、施工単価への反映が追い付いておらず、悪化。製造業は、鉄鋼をはじめ素材などの需要拡大に伴い、原材料価格が高止まりしているものの、転嫁が一部に止まっているためマイナス幅が拡大。卸売業は、仕入価格の上昇・高止まりが続く中、消費税引き上げ後の反動減に備え、コスト削減を進める取引先との価格交渉が難航しており、悪化。小売業は、高価格帯商品の売上増に伴う収益改善が続くものの、パート・アルバイトなどの person 費増大が足かせとなり、ほぼ横ばい。サービス業は、大雪の影響により、入荷が滞った野菜などの価格が上昇したものの、価格転嫁ができなかったため、悪化。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲16.1（今月比▲2.9）と、悪化する見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、卸売業、サービス業で改善を見込むものの、卸売業は「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。その他の3業種は悪化する見込み。

採算D I（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲19.2	▲17.7	▲16.4	▲14.1	▲10.5	▲13.2	▲16.1
建設	▲9.9	1.6	▲4.9	▲5.7	1.6	▲0.9	▲12.3
製造	▲19.7	▲19.4	▲15.8	▲14.0	▲6.3	▲9.3	▲14.5
卸売	▲18.4	▲18.1	▲14.3	▲10.6	▲9.7	▲17.8	▲15.3
小売	▲25.1	▲24.6	▲25.5	▲23.6	▲19.5	▲18.8	▲26.8
サービス	▲19.6	▲22.8	▲17.6	▲12.0	▲15.1	▲17.6	▲9.9

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲ 11.6	▲ 10.0	▲ 11.5	▲ 8.5	▲ 7.0	▲ 9.7	▲ 13.0
建設	▲ 5.0	▲ 1.2	▲ 4.9	▲ 3.9	▲ 2.8	▲ 5.7	▲ 7.9
製造	▲ 14.0	▲ 10.0	▲ 9.2	▲ 5.9	▲ 3.0	▲ 3.3	▲ 9.5
卸売	▲ 10.9	▲ 9.4	▲ 13.1	▲ 9.9	▲ 6.1	▲ 5.5	▲ 8.6
小売	▲ 14.8	▲ 13.3	▲ 15.9	▲ 13.4	▲ 12.3	▲ 14.3	▲ 20.0
サービス	▲ 11.1	▲ 13.3	▲ 13.8	▲ 9.0	▲ 9.8	▲ 16.7	▲ 15.2

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲9.7と、前月から悪化。産業別にみると、製造業、卸売業はほぼ横ばい、その他の3業種は悪化した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、今月と比べ、悪化する見込み。産業別にみると、サービス業は改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。その他の4業種は悪化する見込み。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲ 45.1	▲ 47.6	▲ 50.7	▲ 50.9	▲ 49.8	▲ 49.4	▲ 48.4
建設	▲ 60.3	▲ 59.9	▲ 63.7	▲ 65.1	▲ 67.5	▲ 67.1	▲ 63.0
製造	▲ 46.0	▲ 46.9	▲ 52.1	▲ 54.4	▲ 51.8	▲ 51.8	▲ 45.5
卸売	▲ 45.4	▲ 40.9	▲ 48.8	▲ 50.3	▲ 47.9	▲ 49.1	▲ 50.9
小売	▲ 38.2	▲ 43.9	▲ 41.2	▲ 42.6	▲ 38.2	▲ 39.1	▲ 45.2
サービス	▲ 40.4	▲ 46.1	▲ 50.0	▲ 46.2	▲ 46.8	▲ 45.5	▲ 43.7

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲49.4と、前月からほぼ横ばい。産業別にみると、卸売業は悪化、サービス業は改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。その他の3業種はほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、卸売業、小売業で悪化、その他の3業種は改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

従業員D I（前年同月比）の推移

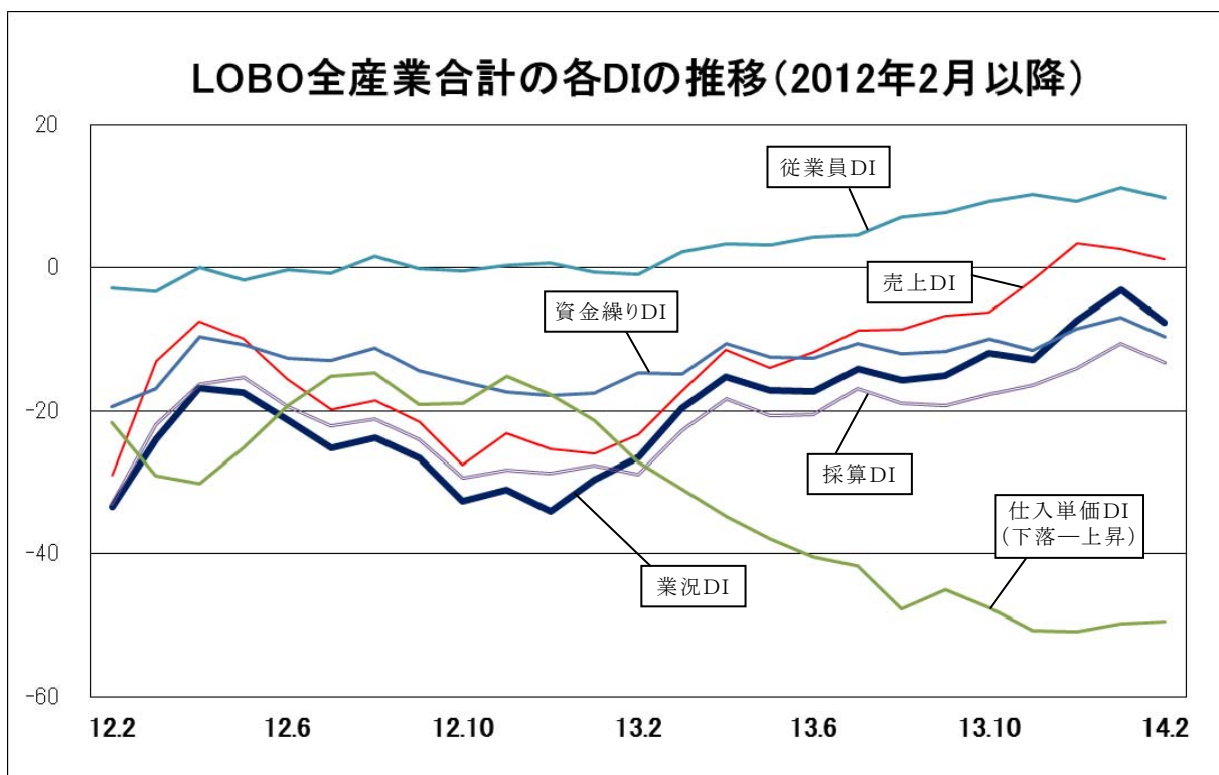
	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	7.7	9.3	10.3	9.4	11.2	9.9	8.1
建設	23.1	25.9	28.2	27.4	31.5	25.9	23.3
製造	3.5	5.4	4.7	5.0	4.1	4.1	0.5
卸売	▲ 2.9	1.2	4.2	▲ 2.5	1.2	0.6	0.0
小売	6.5	7.4	7.7	7.6	6.3	7.3	5.8
サービス	7.8	7.5	9.0	9.5	13.5	12.6	12.3

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは9.9と、前月から人手不足感が弱まった。産業別にみると、建設業は人手不足感が弱まったものの、依然として高水準で推移。その他の4業種はほぼ横ばい。地域の小売業やサービス業では、出店攻勢をかける大手企業が採用を強化する中、人員補充が進まない状況が伺える。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、今月と比べ、人手不足感は弱まるものの、全業種でプラスとなっており、人手不足が続く見込み。産業別にみると、卸売業、サービス業はほぼ横ばい、その他の3業種は人手不足感が弱まる見込み。

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I



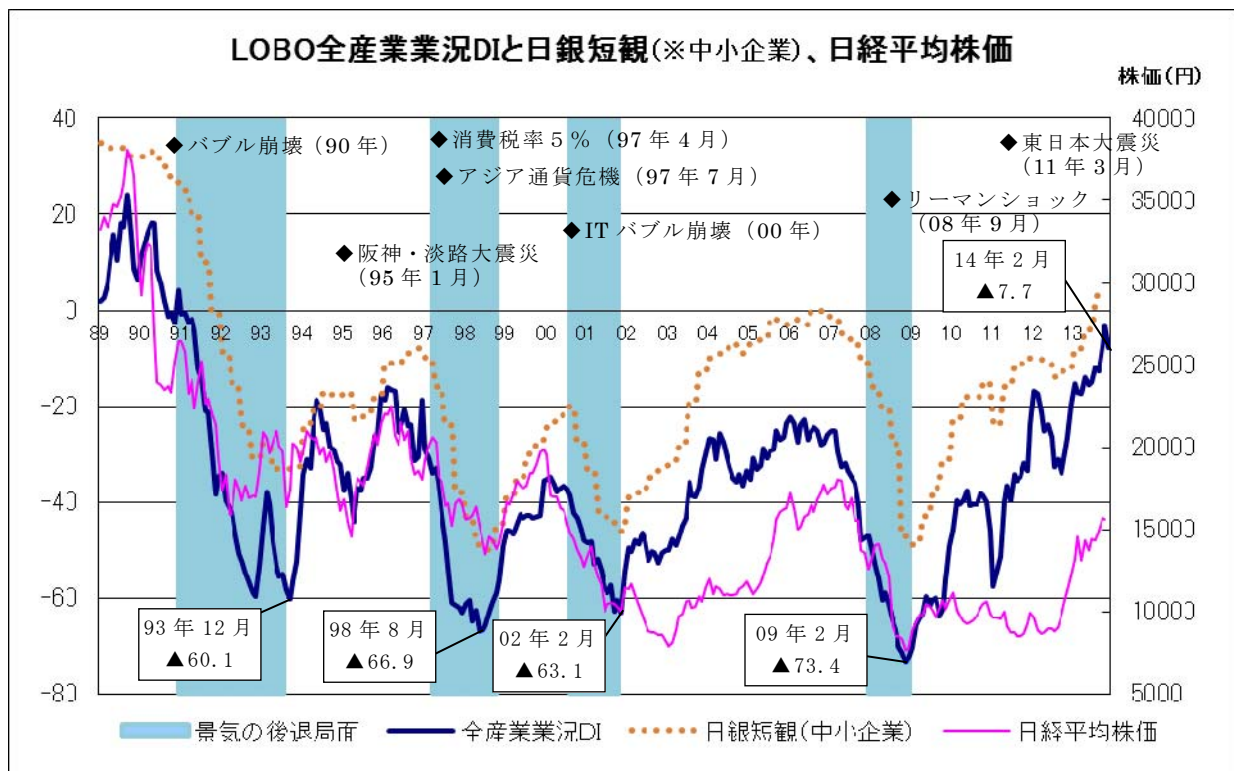
【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北陸信越で改善、東海、四国でほぼ横ばい、その他の6ブロックで悪化した。ブロック別の概況は以下のとおり。
- ・ 北海道は、観光関連では、食料品などの仕入コストや電力料金の負担増により収益改善が遅れているほか、暴風雪に伴う鉄道の運休などにより利用客が減少したため、4カ月ぶりに悪化。
 - ・ 東北は、復興関連をはじめ公共工事の入札不調が続いていることに加え、宿泊業などでは、大雪の影響によりキャンセルが相次ぎ、2カ月連続で悪化。
 - ・ 北陸信越は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、大雪の影響から観光関連が伸び悩むなど、実体はほぼ横ばい。
 - ・ 関東は、大雪に伴い、飲食店や小売店で客足が遠のいたことに加え、一部の製造業などでは、資材・部材の調達が滞ったほか、従業員が出勤できないなど、生産体制に影響が出たことから、3カ月ぶりに悪化。
 - ・ 東海は、好調な自動車を中心に、工作機械などの関連する製造業によるけん引が続いており、4カ月連続で改善。
 - ・ 近畿は、小売業や飲食業では、同業他店を含めパート・アルバイトの採用が活発化する中、人員を確保するため時給単価を上げざるを得ないなど、収益が圧迫されていることから、4カ月ぶりに悪化。
 - ・ 中国は、「好転」から「不変」への変化が主因であるものの、仕入価格上昇分の転嫁が遅れているサービス業が全体を押し下げ、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大。
 - ・ 四国は、取引先からのコストダウン要請が強まっている卸売業で業況が悪化したものの、消費税引き上げ前の駆け込み需要により、衣料品や自動車向けなどの繊維関連が好調だったことから、ほぼ横ばい。
 - ・ 九州は、建築関連や自動車関連の需要拡大から原材料価格が上昇する中、価格転嫁が追い付かない建設業や製造業で業況が悪化したことから、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大。
- ブロック別の向こう3カ月（3～5月）の業況の先行き見通しは、今月と比べ、東北、中国で改善、九州でほぼ横ばい、その他の6ブロックで悪化する見込み。消費税引き上げ前の駆け込み需要により、3月は小売業を中心に売上・受注の増加が見込まれるものの、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増が続く中、4月以降、反動減による受注の落ち込みや消費マインドの低下などが見込まれ、中小企業においては先行きに対する警戒感が強まっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	13年 9月	10月	11月	12月	14年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全 国	▲ 15.1	▲ 11.9	▲ 12.8	▲ 7.4	▲ 3.1	▲ 7.7	▲ 14.5
北 海 道	▲ 1.6	1.5	▲ 1.6	▲ 0.8	7.0	▲ 0.8	▲ 9.1
東 北	▲ 15.9	▲ 11.8	▲ 20.2	▲ 9.9	▲ 12.3	▲ 20.2	▲ 14.9
北陸信越	▲ 14.2	▲ 11.5	▲ 6.0	0.7	▲ 7.4	▲ 6.0	▲ 20.1
関 東	▲ 17.3	▲ 9.6	▲ 14.9	▲ 9.4	▲ 3.7	▲ 9.8	▲ 15.8
東 海	▲ 8.7	▲ 10.7	▲ 7.3	▲ 1.1	2.9	3.5	▲ 15.8
近 畿	▲ 26.6	▲ 28.5	▲ 21.8	▲ 14.1	▲ 3.4	▲ 4.7	▲ 10.5
中 国	▲ 5.0	▲ 10.5	▲ 10.9	▲ 7.9	2.2	▲ 10.6	▲ 9.5
四 国	▲ 16.2	▲ 10.5	▲ 13.2	▲ 11.7	▲ 11.2	▲ 10.6	▲ 17.1
九 州	▲ 22.5	▲ 16.4	▲ 13.5	▲ 9.6	▲ 3.0	▲ 13.1	▲ 13.8

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI



※短観(中小企業): 資本金2千万円以上1億円未満の企業が調査対象

商工会議所LOBO(早期景気観測)

-2014年2月調査結果(概要版・付帯調査)-

2014年2月28日

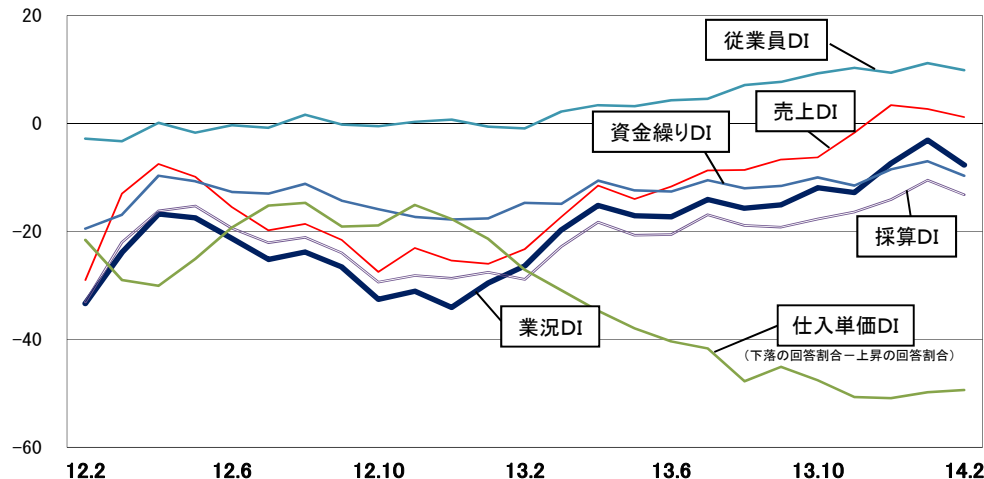
業況DIは、一服。駆け込み需要への期待も、反動減など先行き不安が広がる

ポイント

▶2月の全産業合計の業況DIは、▲7.7と、前月から▲4.6ポイントの悪化。個人消費では、消費税引き上げ前の駆け込み需要がみられるものの、東北・関東を中心とする記録的な大雪により、物流への支障や売上減少など、製造業・非製造業を問わず、影響は広範に及んだ。中小企業の景況感は、売上・受注の堅調な推移を背景に改善傾向が続いていたが、足元では、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増に加え、駆け込み需要の反動減への警戒感が伺える

▶先行きについては、先行き見通しDIが▲14.5(今月比▲6.8ポイント)と、大幅な悪化を見込む。消費税引き上げ前の駆け込み需要により、3月は衣料品や日用品など、小売業を中心に売上・受注の増加が見込まれるものの、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増が続く中、4月以降、反動減による受注の落ち込みや消費マインドの低下などが見込まれ、中小企業においては先行きに対する警戒感が強まっている

LOBO全産業合計の各DIの推移(2012年2月以降)

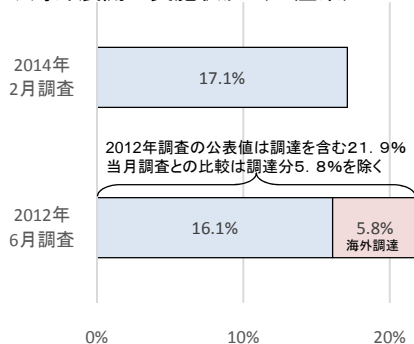


この1年における海外展開の動向

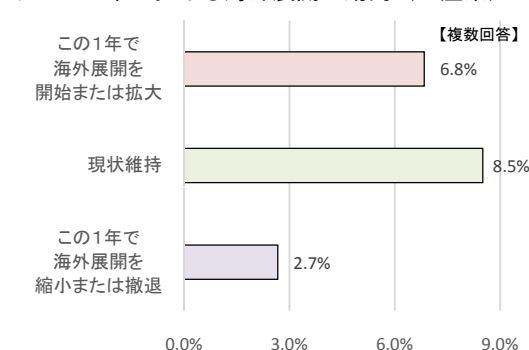
- ▶海外展開(※)を実施している企業(全産業)は17.1%。2012年6月調査(16.1%)と比較して微増。製造業は36.5%で、前回調査から6.3%の増加
- ▶国内経済の回復や円安傾向が定着する中、この1年間で海外展開を「開始または拡大」した企業(全産業)は6.8%、「開始」:0.5%、「拡大」:6.3%、「現状維持」は8.5%、「縮小または撤退」は2.7%。海外展開を実施している企業のうち、この1年で「拡大」した企業は37.1%

(※)自社製品・商品の輸出、海外での生産・販売・物流拠点の整備・増強、生産・販売委託

◆海外展開の実施状況(全産業)



◆この1年における海外展開の動向(全産業)



[中小企業の声]

- ▶現地の日本食ブームや富裕層の増加により、中国・東南アジアへの輸出が増加している(札幌 水産食料品製造業)
- ▶ロシアやモンゴルへの輸出を検討しているが、商習慣や文化の違いから相手企業と信頼関係が築けず、取引が始められない(札幌 建築材料卸売)
- ▶中国の生産拠点について、この1年は現状維持。長期的な視点で為替や日中関係等の情勢を判断し、今後の方針を決定(草加 ねじ製造業)
- ▶数年前から計画のベトナムへの進出は業績回復が十分でないため踏み切れない(東京 繊維製造・卸売業)
- ▶円高が修正されたことで、中国や韓国に加え、インド・シンガポールでの商談が好調。受注にも結び付いている(横浜 船舶部品製造業)
- ▶受注は好調であるが、中国での人件費の高騰により採算が悪化していることから、一部の中国の拠点を閉鎖(諫早 ワイヤ製造業)

◆海外展開内容別の動向(全産業)

